
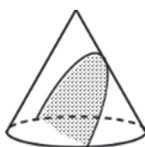


お客様各位

この度は、アガルートアカデミーの講座をご受講いただきまして誠にありがとうございます。
以下のとおり、テキストに誤りがございましたので、訂正の上ご利用いただきますようお願い申し上げます。
ご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

2025 合格目標 公務員試験 数的処理対策講座 テキスト訂正情報

○判断推理

頁	訂正箇所	誤	正	更新日
10	論理式② 解説文 4 行目	イ (A ∧ C) <u>∨</u> (A ∧ C)	イ (A ∧ C) ∨ (A ∧ C)	'23/4/7
25	その他③ 選択肢 1	1 A、 C	1 A、 B	'22/10/25
34	集合② 解説文 2 行目	縦軸に 睡眠時間の平均 、横軸に 朝食を 食べる習慣 、図の内外に……	縦軸に 朝食を食べる習慣 、横軸に 睡眠 時間の平均 、図の内外に……	'23/8/2
100	基本④ 解説下から 3 行目	F の演奏は B から聞こえないためドラムであり、E と F はフルートとクラリネットのいずれかである。	F の演奏は B から聞こえないためドラムであり、E と H はフルートとクラリネットのいずれかである。	'23/2/21
131	リーグ戦⑤ 問題文 選択肢	5. 1 は 3 位であった。	5. I は 3 位であった。	'23/3/6
135	その他① 表Ⅲ 行 A 列 E	(空欄) 5	× 5	'25/7/23
135	その他① 表Ⅲ 行 F 列 A	(空欄) 2	× 2	'25/7/23
135	その他① 表 V 行 B 列 D	○ 4	× 4	'25/7/23
135	その他① 表 V 行 D 列 B	× 4	○ 4	'25/7/23
162	数量条件⑤ 解説文 2 行目	まず「A は最初 1 を出し、B は 最初 7 を出した」という確定的な	まず「A は最初 1 を出し、B は 最後 7 を出した」という確定的な	'22/10/4
276	折り紙⑦ 4 行目	よって、1 回目は「B と D 」「 F と H」の間のスペースが……	よって、1 回目は「B と F 」「 D と H」の間のスペースが……	'25/7/23
286	位相⑤ 8 行目以降	……他の 2 都市とだけ結ばれているのは、 ③ および ④ である。すなわち、 ③ ④ が C 市、D 市のいずれかとなる。 図Ⅱは、 ③ を C 市、 ④ を D 市としたものである。 図Ⅲは、図Ⅱの逆に、 ③ を D 市、 ④ を C 市としたものである。	……他の 2 都市とだけ結ばれているのは、 ② および ④ である。すなわち、 ② ④ が C 市、D 市のいずれかとなる。 図Ⅱは、 ② を C 市、 ④ を D 市としたものである。 図Ⅲは、図Ⅱの逆に、 ② を D 市、 ④ を C 市としたものである。	'25/7/23
298	②円錐の切断面 【放物線】			'25/7/23
304	構成① 解説文 5 行目	$2^3 = 8$ 個は 偶数個 なので不適	$2^3 = 8$ 個は 3の倍数でない ので不適	'23/3/13

326	切断② 解説文 下から4行目	・四角形 EG CD	・四角形 EG DC	'25/7/23
330	切断④ 解説文 9行目	…… A B C D E F は同一平面上なので、これらを結んだ六角形 A B C D E F が切断面となる。	…… A B C D E F は同一平面上なので、これらを結んだ六角形 A B E C F D が切断面となる。	'25/7/23
344	正多面体① 5行目	・正八面体は面が8個→できる多面体の頂点は8個→できる多面体は 正十二面体	・正八面体は面が8個→できる多面体の頂点は8個→できる多面体は 正六面体	'25/7/23
392	投影図⑧ 解説文 全体	※ 解説文につきまして、本訂正表添付のものに差替えいただきますようお願いいたします。		'25/7/23

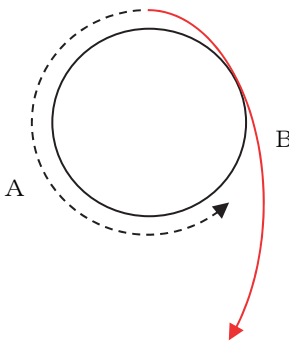
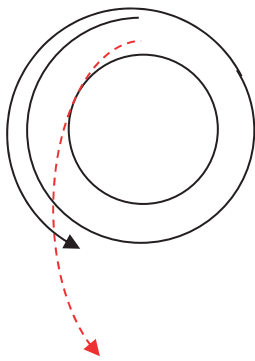
○数的推理

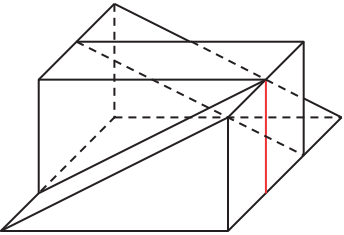
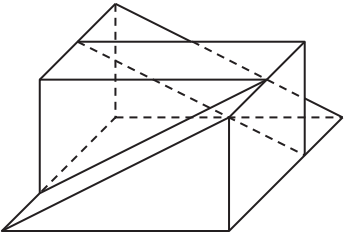
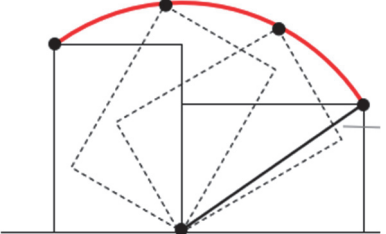
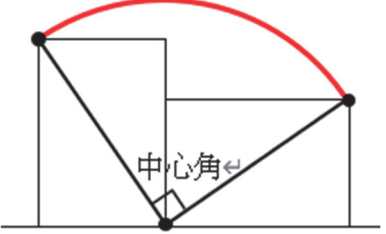
頁	訂正箇所	誤	正	更新日
24	因数分解② 解説文 5行目	Aのカードの積は $6 \cdot 9 = 2 \cdot 3^3$ より素因数3を 2 つ持つが	Aのカードの積は $6 \cdot 9 = 2 \cdot 3^3$ より素因数3を 3 つ持つが	'23/3/1
106	数列② 解説文 6行目	一番左に来るのは(段数 -1) ² であることがわかる。	一番左に来るのは(段数 + 1) ² であることがわかる。	'22/10/25
166	Guide 最終行	$x > \mathbf{3}$ (両辺を-3で割った)	$x > \mathbf{-3}$ (両辺を-3で割った)	'24/11/6
180	不等式⑦ 解説文 4行目	……すなわち $y = \mathbf{-3/2}x + k/8 \cdots \textcircled{3}$ と表せて、……	……すなわち $y = \mathbf{-7/4}x + k/8 \cdots \textcircled{3}$ と表せて、……	'23/9/11
298	場合の数の基本② 解説文 下から3行目	……一の位は十の位に使った以外の数字の 9通り 。	……一の位は十の位に使った以外の数字の 8通り 。	'25/3/19
406	長さ・角度⑨ 解説文 下から3行目	よって $OT = 1/2OA = \mathbf{5/20A}$ が常に成り立つ。Tは……	よって $OT = 1/2OA = \mathbf{5/2}$ が常に成り立つ。Tは…… ※ $OA = 5$ (OA は三角形 ABC の外接円の半径) のため、 $1/2 \times 5 = 5/2$ となります。	'23/9/11
422	面積⑦ 解説文 下から2行目	$\pi \cdot 1^2 \cdot \frac{1}{3} - \frac{1}{2} \cdot \mathbf{1^2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{4} = \frac{4\pi - 3\sqrt{3}}{12}$	$\pi \cdot 1^2 \cdot \frac{1}{3} - \frac{1}{2} \cdot \mathbf{1} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\pi}{3} - \frac{\sqrt{3}}{4} = \frac{4\pi - 3\sqrt{3}}{12}$	'24/12/18
424	面積⑧ 解説文 下から2行目	求める面積は $4 \cdot \left(a^2 - \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot a^2 - \pi a^2 \cdot \frac{\pi}{12} \cdot 2 \right) = \left(4 - \sqrt{3} - \frac{2\pi}{3} \right) a^2$	求める面積は $4 \cdot \left(a^2 - \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot a^2 - \pi a^2 \cdot \frac{1}{12} \cdot 2 \right) = \left(4 - \sqrt{3} - \frac{2\pi}{3} \right) a^2$	'24/4/10
426	面積⑨ 解説文 下から2行目以降	……扇形 BAA' は半径2、中心角 30° より求める面積 S は $\pi \cdot 2^2 \cdot \frac{\pi}{12} = \frac{\pi}{3}$	……扇形 BAA' は半径2、中心角 30° より求める面積 S は $\pi \cdot 2^2 \cdot \frac{1}{12} = \frac{\pi}{3}$	'24/12/18

○資料解釈

頁	訂正箇所	誤	正	更新日
2	基本用語 「1.増加率・減少率」 下から6行目	$2013 \text{ 年} = 2009 \text{ 年} \times (1 + 0.035) \times (1 + 0.011) \times (1 - 0.025) \times (1 + 0.013) = 1.033$	$2013 \text{ 年} = 2009 \text{ 年} \times (1 + 0.035) \times (1 + 0.011) \times (1 - 0.025) \times (1 + 0.013) = 2009 \text{ 年} \times 1.033$	'25/7/23
28	指数・構成比② 肢4解説文 1行目	欠勤、 勤務態度不良 、社外非行のいずれも事務部門の件数は不正取引を超えているため	欠勤、 監督責任 、社外非行のいずれも事務部門の件数は不正取引を超えているため	'23/2/13
34	肢5解説文 1行目	動力他について、構成比は $\frac{0.4}{36.5} \times 100 \cong 1\%$ の増加で……	動力他について、構成比は $\frac{0.4}{36.1} \times 100 \cong 1\%$ の増加で……	'24/12/18
54	増加率⑥ 肢5解説文	右のように修正	X地区、Y地区を除く 2009 年 3 月時点での人口は $121497 - 18438 - 19974 = 83085$ 人、人口減少数は $1003 - 203 - 235 = 565$ であるから、前年の人口は $83085 + 565 = 83650$ 人。 よって、人口減少の割合は、 $565 / 83650 \times 100 < 1$ より 1 % を超えない。	'22/10/25
67	実数・割合④ 肢4 1行目	……すなわち 検率 は、1996 年から 2001 年まで毎年前年を……	……すなわち 検挙率 は、1996 年から 2001 年まで毎年前年を……	'25/7/23
70	実数・割合⑤ 肢5解説文 1行目以降	……より小売業の方が大きい。	……より小売業の方が 小さい 。	'23/9/11
89	指数・構成比④ 肢5 1行目	休日以外の日には自由にできる時間が「3 時間以上 5 時間 未満 」である 60～69 歳層の人数は、……	休日以外の日には自由にできる時間が「3 時間以上 5 時間 未満 」である 60～69 歳層の人数は、……	'25/7/23
92	指数・構成比⑤ 肢3解説文 2行目	両者の減少額の差（テレビの減少額－雑誌の減少額）は $37408 \times (0.546 - 0.129) - 27825 \times (0.644 - 0.09) \cong 37000 \times 0.42 - 28000 \times 0.05 = 14140 \text{ 億} > 0$	両者の減少額の差（テレビの減少額－雑誌の減少額）は $37408 \times (0.546 - 0.129) - 27825 \times (0.644 - 0.09) \cong 37000 \times 0.42 - 28000 \times 0.05 = 140 \text{ 億} > 0$	'25/7/23
94	指数・構成比⑥ 肢3解説文 2行目	……増加数は $5200 \times (1.3 - 1.0) \cong 1620$ (全体の増加数の 15%) = $13000 \times 0.15 = 2025 > 1620$	……増加数は $5200 \times (1.3 - 1.0) \cong 1560$ (全体の増加数の 15%) = $13000 \times 0.15 = 1950 > 1560$	'25/8/27
114	増加率④ 肢1解説文 3行目	$0.018 = 0.01$ の増加であるため、	$0.018 = 0.001$ の増加であるため、	'25/10/15

○入門テキスト

頁	訂正箇所	誤	正	更新日
26	2 項目の対応関係③ 解説	右のように修正	添付の 26 頁をご覧ください	‘23/3/13
104	倍数の性質② 解説	正解の肢が 2 つあると解釈出来てしまう問題でしたので、解説を追記・修正しております	添付の 104 頁をご覧ください	‘22/9/21
118	余りと不足① 解説 下から 2 行目	となり、その最小の数は $168-5=165$ です。	となり、その最小の数は $168-3=165$ です。	‘24/9/11
160	方程式⑤ 解説 図	利益 $500-x$	利益 $500-0.1x$	‘22/11/2
205	第 8 章 速さ Guide 旅人算 「② A, B が逆方向に出発し出会う」の図	右のように修正		‘22/11/11
206	第 8 章 速さ Guide 旅人算 「⑦ A が B を 1 周めかす」の図	右のように修正		‘22/11/11
210	第 8 章 速さ Guide 流水算 下から 5 行目	船の速さが 15km/h, 上流から下流までは 6 時間, 下流から上流までは 3 時間かかるときに,	船の速さが 15km/h, 上流から下流までは 2 時間, 下流から上流までは 3 時間かかるときに,	‘22/11/21
210	第 8 章 速さ Guide 流水算 下から 3 行目	川の長さ を x と置くと	川の速さ を x と置くと	‘22/11/7
222	旅人算② 解説 1 行目	C は B に毎分 $300-120=120$ m 近づきます。	C は B に毎分 $300-180=120$ m 近づきます。	‘22/11/7
260	和積の法則② 解説 3 行目	A が 1 枚, B が 3 枚 / A が 1 枚, C が 3 枚 / B が 1 枚, C が 3 枚 / C が 3 枚, B が 3 枚の場合	A が 1 枚, B が 3 枚 / A が 1 枚, C が 3 枚 / B が 1 枚, C が 3 枚 / C が 1 枚, B が 3 枚の場合	‘22/10/25
260	和積の法則② 解説 8 行目	③ A が 1 枚, B が 1 枚, C が 2 枚 / A が 1 枚, B が 2 枚, C が 1 枚の場合	④ A が 1 枚, B が 1 枚, C が 2 枚 / A が 1 枚, B が 2 枚, C が 1 枚の場合	‘22/10/25
270	最短経路 解説 5 行目の式	$7C_3 = \frac{7 \times 6 \times 5}{3 \times 2 \times 1} = 35$	$7C_3 = \frac{7 \times 6 \times 5}{3 \times 2 \times 1} = 35$	‘23/3/6

276	確率の定義① 解説	右のように修正	合計 23 人のうちから 3 人を選ぶ選び方は、 ${}_{23}C_3 = 1771$ 通り そのうち条件を満たすような選び方は、白組 10 人から 1 人選び、赤組 7 人から 1 人選び、青組 6 人から 1 人選ぶ選び方なので $10 \times 7 \times 6 = 420$ 通り よって求める確率は $\frac{420}{1771} = \frac{60}{253}$ となり、正解は肢 3。	'22/11/11
276	確率の定義① 正解肢	2	3	'22/11/11
358	投影図① 解説の図		 ※「誤」に記載の図形内の赤線を削除	'22/12/5
392	第 6 章 軌跡・円の回転数 Guide 回転する図形における 1 点が描く軌跡	「多角形などが転がるとき、1つの点はおうぎ形を描きます。」の次の図を右のように修正		'23/2/1
392	第 6 章 軌跡・円の回転数 Guide 回転する図形における 1 点が描く軌跡	「転がる軌跡が描くおうぎ形の中心角の大きさは、図形の外角の大きさに連動します。」の右下の図を右のように修正		'23/2/1
397	第 6 章 軌跡・円の回転数 Guide 円の回転数の公式 【例】最後の枠内	1 周する間に 2 回転するので、 $\frac{2}{3}$ 周なら $2 \times \frac{2}{3} = 1\frac{2}{3}$ 回転する	1 周する間に 2 回転するので、 $\frac{2}{3}$ 周なら $2 \times \frac{2}{3} = 1\frac{2}{3}$ 回転する	'23/3/6
470	指数 肢 3 解説 5 行目	15 年度：98.1－88.4＝9.7	15 年度：98.1－84.4＝13.7	'22/9/21

真上から見て 3×4 の 12 箇所が埋まっているので、まず最下段に 3×4 を敷き詰め、その時点で 12 個必要である（正面図と右側図の最下段も埋まっている）。

これで真上の図の条件は満たせたので、次に正面図と右側図の条件を満たしていく。

正面図から、「左から 1 列目に +1 個、2 列目に +2 個、3 列目に 0 個、4 列目に +2 個」必要であることがわかる。

右側図から、「手前の行に +2 個、奥の行に +1 個」必要であることがわかる。

正面図と右側図の条件を同時に配置していくと最少個数になる。よって、配置としては、

「左から 1 列目・奥に +1 個」（正面図と右側図の条件 1 個ずつ達成）

「左から 2 列目・手前に +2 個」（正面図と右側図の条件 1 個ずつ達成）

「左から 4 列目・手前に +2 個」（正面図の残り 1 条件達成）

となる。最少個数は $12+1+2+2=17$ 個となり、正解は肢 1。

正解

1

条件アからエより対応表は以下のようになります。

	国	数	英	体	美	
A	○		○		×	3
B	×	○		○		3
C	○		○		×	3
D		×	○	○		3

条件オより全員得意な教科があり、体育が英語に絞られます。体育が4人とも得意とすると、条件ア「Aは、得意な教科のうち2つだけはCと同じ国語と英語」に反するので不適です。よって英語が全員得意な教科となります。

	国	数	英	体	美	
A	○		○		×	3
B	×	○	○	○		3
C	○		○		×	3
D		×	○	○		3

Bについては表から美術が不得意だとわかります。条件オより「1人だけが得意な教科」が1つ存在しますが、この候補は現時点で○が1個以下である数学か美術です。

「1人だけが得意な教科」が数学と仮定する（つまりA数学×、C数学×と仮定する）と、得意教科が3つという条件からA体育○、C体育○と確定しますが、すると体育と英語が全員得意になってしまい、条件オ「全員が得意な教科が1つある」に反してしまいます。

よって「1人だけが得意な教科」は美術になり、B美術×は先に確定しているのでD美術○とわかります。そうするとDは、得意科目が英語、体育、美術となるので国語が苦手だということもわかります。

	国	数	英	体	美	
A	○		○		×	3
B	×	○	○	○	×	3
C	○		○		×	3
D	×	×	○	○	○	3

条件ア「Aは、得意な教科のうち2つだけはCと同じ国語と英語」より、AとCの両方とも数学が得意や両方とも体育が得意ということはないことがわかります。

	国	数	英	体	美	
A	○	○/×	○	×/○	×	3
B	×	○	○	○	×	3
C	○	×/○	○	○/×	×	3
D	×	×	○	○	○	3

よって、確実にいえるのは肢2のみなので、正解は肢2となります。

「人数が 12 人の場合はりんごもみかんも全員がそれぞれ同数ずつとなるように配ることができる」より、りんごもみかんも 12 の倍数です。

りんご	12	24	36	48	60	72	84
みかん	12	24	36	48	60	72	84

「人数が 8 人の場合はりんごを全員が同数となるように配ることができず」より、りんごは 8 の倍数ではなく、みかんは 8 の倍数となります。よって、りんごとみかんの個数を表にまとめると次のようになります。

りんご	12	24	36	48	60	72	84
みかん	12	24	36	48	60	72	84

みかんは 9 の倍数ではなく、りんごは 9 の倍数です。よって、りんごとみかんの個数を表にまとめると次のようになります。

りんご	12	24	36	48	60	72	84
みかん	12	24	36	48	60	72	84

ここから、合計 84 個を満たせるのは（りんご、みかん）＝（36 個、48 個）のときです。6 人に配ると、りんごは 6 個、みかんは 8 個配ることができますので、その差は $8 - 6 = 2$ となります。

したがって、正解は肢 1 となります。

【注意】

上の解説では、問題文の「12 人ではりんごとみかんを同時に配れる。しかし 8 人のとき『りんごは』同数に配れず、9 人のとき『みかんは』同数に配れない」の記述に注目し、8 人のときみかんは同時に配れて、9 人のときりんごは同時に配れるものと解釈して解いています。

もしそう解釈せず、問題文のみの条件から解く場合は以下のようになり、答えが出なくなります。

りんごから 8 の倍数を除き、りんご候補：12, 36, 60, 84

みかんから 9 の倍数を除き、みかん候補：12, 24, 48, 60

ここから、りんごとみかんの個数を足して 84 になる組合せを抽出すると（りんご、みかん）＝（36, 48）、（60, 24）の 2 つ。

（りんご、みかん）＝（36, 48）のとき 6 人に配るとりんごは 6 個ずつ、みかんは 8 個ずつなのでその差は 2 個で選択肢 1 が解。

（りんご、みかん）＝（60, 24）のとき 6 人に配るとりんごは 10 個ずつ、みかんは 4 個ずつなのでその差は 6 個で選択肢 5 が解。

よって正解の肢が 2 つになり、答えが定まらないことになります。

正解

1